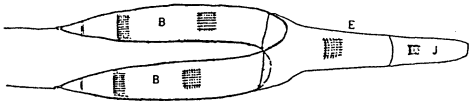


1. 事業細目：資源研究調査費（資源利用開発研究） 2. 研究名：沖曳アユ飼育試験 3. 研究期間：平成元年度～ 年度 4. 担当者：西森、里井	予算額 494千円 予算区分 県単
5. 目的 沖曳網で採捕される稚アユの品質、歩留りを把握検討して、蓄養、飼育技術の向上をはかる。	
6. 方法 (1) 沖曳アユの採捕：図1に示すような網を用いて湖底近くを20～30cm/secの速さで曳網した。 (2) 沖曳アユの体型調査：沖曳網で採捕された稚アユの体形を測定した。 (3) 採捕時期と体型との関連調査：昭和54年から平成元年までに採捕された標本を用いて体型の伸びを求めた。 (4) 沖曳アユ飼育試験：沖曳アユの飼育密度が約0.4kg/m³、塩分濃度が0.51%、0.64%、0.77%になるように設定し、10日間飼育して歩留りを	検討した。なお、輸送時の塩分濃度は0.4%で、48時間蓄養後、200cc/min（水槽容積570ℓ）で注水した。 (5) 飼育アユの異形魚調査：(4)の飼育試験終了後、引き続き稚アユを2ヶ月間、市販の飼料で飼育して異形魚の発生の有無を検討する。
7. 結果の概要 (1) 沖曳アユの採捕量の比較：平成2年1月18日に、野洲川沖と和邇沖で採捕した稚アユの量は、一曳当り0.4kgであった。昭和59年から平成元年までの6ヶ年間の平均値3.5kgの11%と少なかった。 (2) 沖曳アユの体型の比較：今回採捕した沖曳アユの平均体重は、0.359gであった。これは過去6ヶ年間の平均値0.313gの1.1倍であった。 (3) 沖曳アユの体型の組成：体重が200～299mgのものが最も多く37.2%、次いで100～199mgのものが22.8%、300～399mgのものが13.9%、500～599mgのものが9.4%、400～499mgのものが5.6%等であった。 (4) 沖曳アユの体型の伸び：昭和54年2月から平成元年3月までに、沖曳網で採集された142標本の体重の平均値を用いて採捕時期と体型との関係を求めると、$Y=0.005626X+0.239612$で表された。1月20日で0.313g、2月1日で0.380g、2月15日で0.459g、3月1日で0.538gの体型の伸びをするものと思われた。 (5) 沖曳アユ飼育試験：塩分濃度0.51%、0.64%、0.77%区とも、2日までに斃死が多く見られた	が、最終歩留りは、塩分濃度0.51%区が65%、0.64%区が51%、0.77%区が60%であった。前年の歩留りと同程度であった。本年の沖曳アユの歩留りは、塩分濃度0.4%で輸送し0.5～0.7%で蓄養して、48時間後より徐々に換水すれば、歩留りは60%程度になることがわかった。弱体アユは見られないようであった。 (6) 飼育アユの異形魚調査：引き続き、市販のアユ用飼料で約1ヶ月間飼育して、異形魚の発生の有無を肉眼で観察したが、1尾も認められなかった。

8. 主要成果の具体的数値

表1 一曳網当りの採捕量と体型

年 月 日	59.1.11	60.1.18	61.1.15	62.1.12	63.1.7	元.1.13	平均値	2.1.18
採集場所	和選～野洲 川北流中間	和選沖、野 州 新川沖	和選沖、野 州 新川沖	野洲川 新川沖	和選沖、野 州 新川沖	和選沖	—	和選沖、野 州 新川沖
水深 (m)	13～17	21.11	22.13	12	14～18, 14～21	18.5～22	—	11.2～23.7
水温 (℃)	8. 5	7. 0	7. 4	8. 3	9. 2	8. 7	8. 2	8. 9
採捕量(kg)	5. 0	2. 6	9. 9	0. 1	1. 5	1. 7	3. 5	0. 4
平均体重(g)	0.254	0.195	0.213	0.494	0.336	0.385	0.313	0.359



B：袖網（蛙又、35節、長さ900cm、高さ300cm）

E：袋網（蛙又、35節、長さ750cm、高さ300cm）

J：袋網（蛙又、40節、長さ225cm）

図1 沖曳網の構造

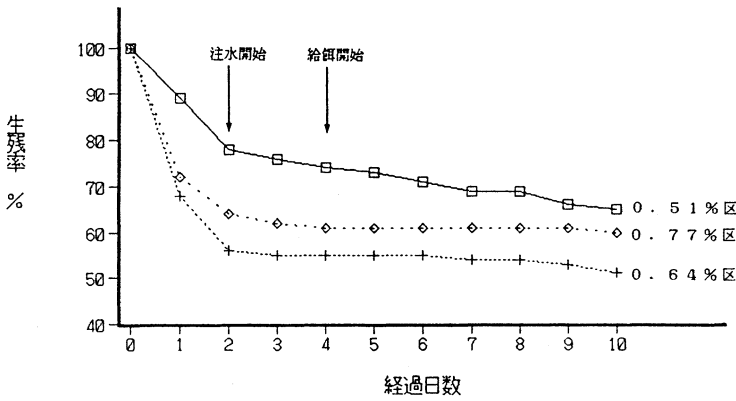


図2 沖曳網で漁獲されたアユの生存率の変化

9. 今後の問題点

弱体アユの発生動向の把握。沖曳アユの蓄養、
飼育技術の向上。

10. 次年度の具体的計画

アユ種苗健苗化対策研究事業の中で継続実施す
る。